

但州湯嶋道山獨坐齋

特別
ル 3
3617
56



目安の合攸

△宿次立場中

但し宿次立場中は、宿次立場中を指す。宿次立場中は、宿次立場中を指す。

○街乃海の中山村里

社名新小のちる

●街乃海の文中小加ゆ

又元街乃海のちる

山川村里も社名新小のちる

えんふふ。是とちる

△分ま乃のち

但し分ま乃のちは、分ま乃のちを指す。

名物よふ○京とちる海乃

但州城崎浴湯辨

○四禁

一秋湯すゆがき事

湯すゆがき事

人一日ふ二三夜は

人四五夜と定むゆ

をよくぼりて是か

多く入るを秋湯といふ

一秋湯に入まき事

い酒を細者といふ

きふちり

一 越後越前とて

一 保善破海とて

公持身の内つひ合

の多し酒合の帳

かすかすの月

まらぬ

右四禁とて古東

湯入るあらし

身を共へん

四禁をいなる

とて

すゝん

て。四禁

而後

○地敷

温泉

但る

筋あり

播磨 大坂

三田 大坂

福智 大坂

右の道の

豊岡

後藤氏此の母あり。あ
くく試みはく考てあり
ゆへに其の湯をうとそ
中の湯に柳包湯あり。決
して其の湯をわすと定
められし。其の湯を
門人秀菴の湯の地じ
る書に過しはまびらま
辨せし見たり。その程ぬ
世間其湯功ありをわして
をきけり。ははははは
とて。その湯をわすと

おろぬ入也と幕湯と目
かろうに互らぐひに入也。
口ろろの幕をいれ中の
あんどう灯をいれし。男
女は左右に分け湯女是
を割して。かまじ、大俵
湯に功強。後藤菴の湯
の湯に湯通し。大俵を温
め。その血を巡らせ。胎
毒瘰癧毒をいれ。自然に其
毒退き。瘰癧をいれ。瘰
血切。瘰癧をいれ。其の湯

又て峻絶。よつて一日。雖
も。其の。あつて。あつて。あつて。
た。め。巡。す。す。ゆ。た。ん。ん。
伸。く。病。の。根。を。抜。く。其。相
。さ。う。と。合。点。を。な。す。あ。
道。記。を。考。へ。考。へ。考。へ。考。へ。
。は。た。ひ。あ。つ。て。あ。つ。て。中。
。は。毎。日。出。る。ぬ。じ。の。其。後。
。其。病。自。治。す。ゆ。ゆ。と。志。
。を。な。す。

○温泉の湯

○新湯一の湯

香川先生。薬選よ。い。ま。
但。初。機。濟。新。湯。の。究。上。玉。
。極。天。下。分。一。の。恒。泉。を。ん。
。と。云。い。

○二の湯

其。源。新。湯。あり。功。能。相。
。同。し。

○三の湯

其。源。三。の。湯。よ。う。

○新湯

新。湯。

茶選よいく。瘧陽を

瘧と云くは湯加患をり

その病人の其功をりや

有り。まうれも。病後

痛有し人の毒を退也

憂ありはを色あをる

事なり。

○常湯 上湯

け湯は湯より好ま

たひふれよりこ

御玉湯

従者御不より。貴人方

は入湯者よと。記録

のせたり。よつては御所

れ名こそなるかさん

多しゆ。無冒したると

又のたり。

曼陀花湯

け湯は用山道智上人

曼陀花を搦りて

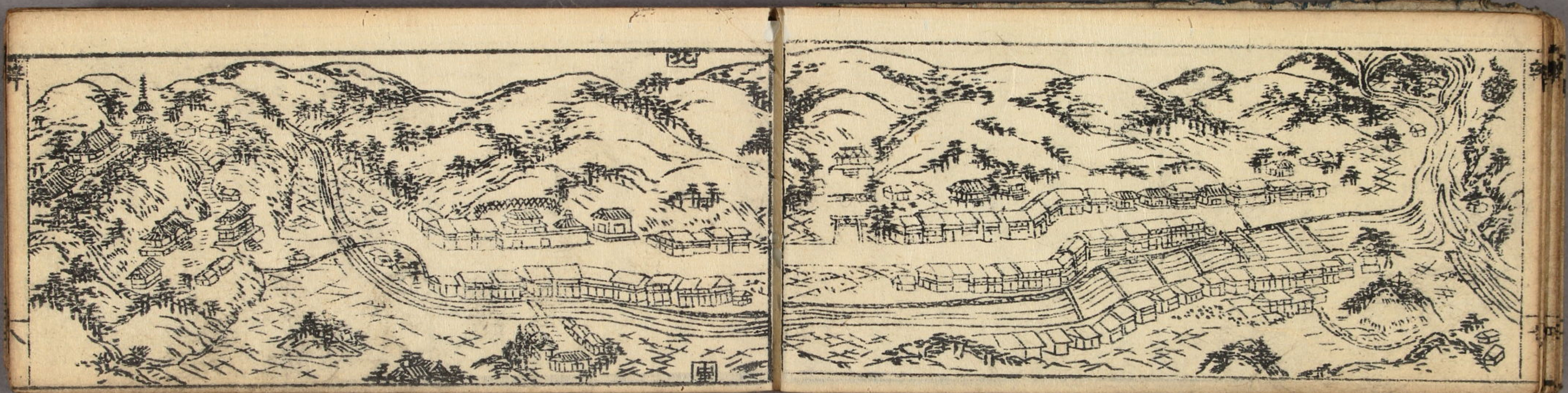
珍り。玉いしをまんたら

の名あり。温泉のけが

よて。曼湯なり。

○あつ湯と中の湯と此功
性黑白明白なる。あま
まらぐや。ちうけども
ゆるし。金さくは。是初宿
に。服前れ。に。迷ひ
まらぐや。室は。招く。人。世

い。多。一。其。人。此。理。次。其。な。ま
或。中。の。湯。を。採。り。て。す。ま。り
も。有。病。に。よ。中。の。湯。と。あ。つ
ゆ。と。分。て。指。圖。す。ま。り。の。細
ゆ。ゆ。へ。く。無。也。を。遊。出。後
中。の。湯。と。入。て。名。は。べ。く。と。も
有。何。も。深。かり。の。ゆ。ひ。て。く。
降。る。ゆ。と。瘡。毒。殺。す。と。た
か。ら。た。ま。あ。つ。湯。は。体。て
く。戲。中。の。湯。と。い。へ。ん。
い。ふ。は。不。辨。し。但。る。湯。活。の。と
を。ぬ。ん。た。ま。の。い。は。さ。り。ぬ。べ。



○温泉功能

骨痛 下痢 便毒

雁家瘡 疔病 痔類

諸惡瘡

右ノ温泉も功あり。但瘡毒と
いふは、大かゝる瘡も功のこれなり。
も、或へく又瘡す。瘡いふは、
いふ瘡より重し。故に、
と。金のはすれど、
此湯に入て、楊梅瘡や、
は瘡す。瘡す。瘡す。瘡す。
きんは瘡す。瘡す。瘡す。

まに、
まに、
まに、
まに、

結毒 瘰癧 脚氣

損傷 中風 麻木

九疔瘡

引けり。瘡い類。或いし。瘡
いせん。田いし。類。積氣
疔瘡。疔瘡。白濁。送精
遺尿。遺尿。遺尿。遺尿。

あつてはする病痼疾を治す
ゆえに針灸を以て功
て病を治す。氣血不和
積滞を治す。氣を治する
の白濁の道理。然るも女
だ。医人も多し。あり。

婦人の經病。帯下を治す。
ほて子。たな。湯治れ。法。
根す。治。ま。括。別。有。る。
病。の。湯。煎。記。の。龍。神。考。の。
湯。も。お。煮。も。功。の。た。な。此。湯
に。及。び。な。此。湯。は。湯。煎。法。也。日本

湯上至極

○湯法

先湯ぬのひ。湯を。其。板。間。と。
湯めを。湯。あ。き。座。し。て。い。や。
を。り。の。く。湯。を。汲。て。兩。肩。暖。
背。み。焼。け。け。板。敷。洗。い。
る。も。氣。を。ゆ。め。め。さ。る。た。り。
小。息。吐。水。あ。ら。び。す。め。ぐ。て
後。湯。れ。中。は。ほ。め。り。体。を。あ。ら。
め。ら。り。入。本。は。あ。ら。ま。せ。し。湯
を。あ。ら。り。洗。い。て。此。湯。

湯。れ。中。は。ほ。め。り。二。度。し。

汗

す。只東極の熱く入るし。
かう箱かむ 言ふ方ののびー一なる海
能よ 是の湯を浴と。今抽
揚あを。洗せんわくくして思ふ不ふの
は。甚快くして功多し。但積れ
有人の背乃十二三四のあり
より下いとせせて。それより上
と。腋わに。なまきか。あ。映
動うごえんを。思おもく。か。か。志弱
き痛いたふ。な。づ。く。用もちの。が。は。
形かたちて。洗せん過かて。洗せん初はつて。海うみ中なみ
つ。の。り。を。の。り。と。よ。る。せ。ぬ。ぬ。

す。す。バ。の。り。て。汗あせ費つえん。と。
あ。く。と。下いの。温ぬるめて。と。さ。び。れ
す。空そらを。入いる。の。り。必かならず。洗せん漬ひ
あ。く。も。今いまも。な。る。し。目めの。あ。り。き
人ひと洗せんて。毒どくを。ぬ。き。と。功こうの。り。を
た。れ。人ひと環たま。目め入いる。と。バ。痛いたの。り
用もち捨すり。た。七しち。本ほん自じ。長なが湯ゆと。今いま次つぎ
や。も。と。れ。自じ。ま。る。の。有あ。職しやくと。ぬ。き
の。り。酒さけを。た。り。の。り。入いる。の。り
す。の。り。の。り。と。無なし。重おもい。と
を。の。り。す。販はんを。の。り。す。但た
登のぼる。の。り。入いる。と。取とり。用もち人ひと。

陰分を以て豊に持氣を養
先く。さ。じ。ひ。ま。い。ら。る。る。と。す。は
日。の。り。ま。そ。す。う。若。眠。も。人
か。う。て。た。ま。ま。く。登。直。也。
結。核。を。養。て。養。風。を。と。り
早。く。行。る。べ。し。湯。治。れ。る。也。
表。氣。ひ。ま。い。ら。る。る。と。す。は
ま。は。か。り。浴。衣。を。か。か。り
お。し。や。う。を。と。す。か。い。は。ゆ
ま。じ。ま。だ。り。く。す。も。老。弱。の
人。に。日。に。二。三。度。土。健。は。人
四。五。度。ふ。じ。べ。く。は。湯。治。と

の。こ。し。で。湯。中。の。ふ。あ。し。ん。
只。日。粒。を。入。る。一。大。さ。こ。乃
人。二。三。つ。と。志。し。と。日。は。人
長。一。と。あ。う。軽。に。満。い。と。も
め。り。た。と。と。く。湯。治。と。も
人。ま。た。な。よ。ま。の。痼。疾。を
ま。だ。い。を。速。功。あ。い。と。も。こ
四。十。日。よ。う。或。は。半。年。一。日。の。ゆ
分。其。病。人。余。の。休。期。と。す。べ
し。志。は。養。を。ま。ち。の。人。に
さ。じ。や。り。入。り。と。す。と。も。あ。い
め。た。は。日。に。二。三。回。湯。治。と

神

初痛病と云ふ。又八日過ぎ。身つ

重なるもの。されば病て。欲

湯千人のくま。是四禁れ二

あり

入湯とて三日の後。胸板

すれ。食すむい。湯おぬら

ち。之にお癒。後必

食す。但其時二日休

再入て。もた。あり。つ。は

を。と。儲。入。入。て。く

を。た。た。か。く。た。か。く。は

入。た。の。す。湯。は。ま。た。は。い

し。す。き。き。あり

四又日のは。甲。の。こ。ふ。を。七

八。度。腹。さ。り。熱。し。解。く。う。後

し。る。た。た。か。か。る。た。の。者。

是湯た。ぬ。れ。ち。ち。ち。あり。

あ。つ。て。未。雨。の。ハ。ハ。守。其

は。湯。に。入。し。て。自。然。止

じ。但。諸。人。は。し。ち。り。ん。り。

す。た。後。極。し。極。す。た。の。功

か。し。く。入。食。す。も。あ。い。せ。け。ら。

食。事。に。大。事。也。大。後。か。く。

や。う。と。そ。の。あ。ら。ま。は。た。た。は。し。

解

解

汗あり

湯はれは入湯のりねた
その湯をほよるのをも
まきす人のまきすらん
あやゆらん。まきす
痛うは湯浴の中も。ま
す。湯の中。相推す。湯
のたもゆらん。まきす
中家。まきす。まきす。
まきす。

ところあり。よろしく。酒合

すべのべ。まきす。冷た

冷飯乃た。いじ

い地え某水海をまきす

みそたれ氣候不正上湯

湯を好まじし。毛れ完

け。風をに感し。まき

水腫傷定れ恐あり。能

用へ。勿論ゆらん中。風

水。殺す。まきす。まき

まきす。まきす。まき

まきす。まきす。まき

まきす。まきす。まき

べのしぎ

熱を湯治すも人別して
持たぬが大事なり。いふを
せむは湯とて五体の血脈
を和してねく。筋骨の
み。表氣を流くぬめを息
小使赤く。或は腹をうらま
振ふる。或は酒の多いは
音曲あまうらむ。風邪
入やすれをさるべし。ほほご
更りんや。ゆるるし。入てや
もすれば。大合大酒。或は

酔ふがひ。或は下詰じや
終末したる者より。多かり
て。宣覧し。のち。大よ。不
せたり。それ。人。所。ま。ん。人
目を去のんじ。色。ま。ら。し。い。ぬ
の。し。ん。あり。旦。夜。か。い。ら。ま
れ。湯。も。男。女。入。也。あ。ら。う。
全。身。の。ま。是。は。心。が。け。て。あ。ら。ま
の。別。治。す。あ。ら。の。か。ら。あ。ら。ま。ら。ん。不。持
れ。至。言。語。は。あ。ら。の。か。ら。い。不
も。得。や。る。人。の。其。功。を。た。の
こ。う。あ。ら。ま。ら。ん。か。ら。い。あ。ら。ま

よのりきし湯入るをぬ
ほどいつや病人とわ。そら
くくんにあつてなつる病の
病。わらうとねわらう。病と。
おれ人。病人のあつたといと
す。先眼薬の功。分。て。全
その。ぬ。ち。中。に。湯。の。害。
と。あ。る。人。を。さ。し。ゆ。あ。ん。え。
よ。め。て。中。の。湯。を。一。思。て。毒。
湯。は。あ。げ。け。ら。る。と。大。此
湯。を。ね。と。わ。て。入。る。ま。の。り
と。り。ん。が。あ。ら。う。り。大。此。道。理

ゆ。中。の。湯。入。て。も。害。を。な
ん。も。と。考。の。り。そ。不。審。み。あ。ら
ず。よ。る。あ。ま。の。血。脈。を。病。て
後。ふ。既。瘵。と。成。て。固。て。人。愈。へ
ざ。り。人。あ。ら。う。人。の。と。あ。あ。よ。り
て。此。あ。ま。あ。ら。う。一。が。何。と。の。湯
へ。て。よ。う。と。ま。さ。や。と。を。ま
あ。の。り。れ。ば。あ。ま。を。指。圖。し。て。
中。の。湯。入。る。一。む。い。は。病。人。中。の
湯。入。て。二。日。ち。は。よ。り。病。ふ
あ。ら。う。て。合。と。あ。ら。う。二。日。ち。は。
氣。を。さ。し。や。ら。う。ゆ。湯。も

つづ。食ともく守が外て

のそあつと。相宿の病癒け

振子をあらみ。親切とらて。

同くわらう侍。さうくのよう。

とるーりくばすて。修大よお

とらぬ。是場はぬがひぬへ。

あつゆふこそ入をりまて。

自修誰ははぬとらぬひ

てめつゆへ入るこをりまて。

たらまら。氣色あはくまて。

食をみ出し。あけきるるを地

付。此瘡とらぬ出はらう。臆お

ふ。事。癒ゆて。其。ねらひ

間。は。瘡。甲。の。す。す。り

とぬけく。瘡。りり。き。き。き

し。と。と。と。と。と。と。と。と

たりと。と。と。と。と。と。と。と

けと。瘡。と。瘡。の。根。を。ぬ。い

ぬる。け。人。己。に。席。の。處。と。ふ

こ。ろ。ろ。こ。こ。は。後。の。氣。ば。と

を。ち。て。ぬ。ぬ。この。し。命。を。か

つ。げ。傍。の。恩。と。も。濟。の。し

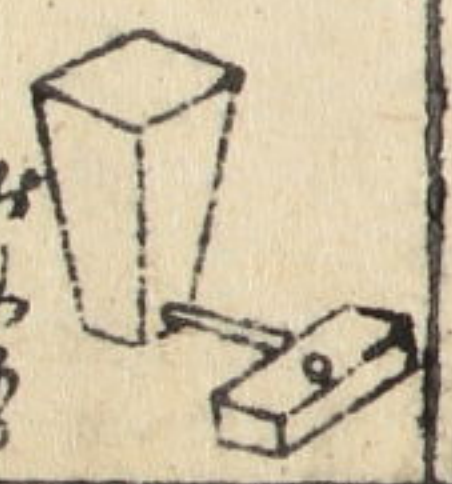
神。厚。謝。し。て。お。か。と。ら。る

と。ら。り

又ある也。と申す所の思院瘡
 甚く候。同いふも。背に
 浮く。母力ひひらう。母
 子親養もあ。其湯の
 入。夏水湯法。一。乃。洗。い。と。
 此。事。を。さ。し。る。ま。の。お。り。れ
 ば。こ。の。思。院。瘡。に。付。申。れ。ぬ。と
 候。竹。骨。へ。入。る。く。お。ぬ
 て。破。れ。瘡。ま。ら。く。付。れ
 ば。三。日。に。止。ま。ら。ぬ。と。申。す。
 子。と。母。を。疑。ひ。限。じ。ゆ。
 不。儀。な。思。院。瘡。か。ら。今。身

紫。皮。及。び。ぬ。て。死。す。と。申。す。
 と。申。す。一。は。れ。ぬ。と。申。す。
 一。中。の。湯。に。寄。り。ぬ。と。
 毒。湯。と。申。す。と。申。す。や

謝温志之圖



右。を。奉。信。系。不。信。く。瘡。瘡。を
 人。脚。門。及。び。湯。不。打。也。臭
 かり。を。あ。け。人。の。瘡。瘡。を
 備。用。也。と。申。す。

○陽徳雑話

陽徳の者、考へて並に

徒らして陽、初まは、俣

時、更ら、安め、入身、ありて

海、に入ら、ちめ、と、一、休、息、

一、翌、日、より、入、て、し、

用、意、此、金、銀、取、指、其、外、

支、切、の、お、ろ、ふ、包、名、れ、と、付、

て、き、ん、も、取、り、て、し、

き、時、ハ、用、の、少、き、を、取、り、

取、ら、る、る、ま、れ、る、お、ろ、と、

事、も、あ、ら、ん、と、わ、り、

意、の、聖、朝、ハ、自、ち、世、帯、す、

ま、つ、た、た、れ、お、ろ、と、わ、り、

肉、分、は、早、す、す、り、め、い、味、

增、油、塩、お、醤油、は、類、其、外、

一、切、宿、附、の、商、人、す、り、通、い、

よ、て、入、ら、ち、う、り、ふ、ら、れ、お、

と、い、ハ、な、ま、は、を、と、り、調、え、

け、し、宿、より、日、を、た、な、せ、

齋、束、は、一、け、一、束、を、と、り、て、

一日二。二夜。出たをい。夜
油の客の子を。病を
い宿より出た。二夜
の。自。酒。宿。お
て
彦。代。一。旦。り。こ。よ。の。外。
又。そ。り。外。た。た。り。代。え。
初。合。一。旦。り。四。五。外。湯。は
の。れ。の。ど。り。勿。論。由。分。世
夢。に。す。る。耐。い。彦。代。
三。夜。む。ろ。り。ち。う。り

幕湯 大幕湯 湯

入。せ。う。と。い。は。人。行。を。も。て。お
り。中。の。よ。り。ま。だ。か。さ。の
け。け。文。身。は。痛。不。あ。り。人
ち。と。其。難。あ。り。う。め。と。
幕。湯。に。ま。ぐ。幕。湯。は
す。た。た。湯。女。人。と。か。う。く
入。て。其。上。と。よ。り。た。い。つ。し
か。り。あ。り。て。四。五。外。入。か
り。幕。湯。一。日。二。夜。
湯。女。人。い。ま。る。幕。代
一。夜。あ。り。う。ろ。ろ。り。人。殺
れ。ま。つ。う。り。幕。湯。は

ひい。湯女。いふ人
東平。湯女。いふ人。何
ま。湯女。いふ人。何
い。湯女。いふ人。何
宿の亭主。女。湯女。いふ人。何
下男。湯女。いふ人。何
い。湯女。いふ人。何
り。銀。湯女。いふ人。何
て。湯女。いふ人。何
へ。湯女。いふ人。何
お。湯女。いふ人。何

灯の鐘

一人。湯女。いふ人。何

湯女。いふ人。何

掃除後

自分。湯女。いふ人。何
を。湯女。いふ人。何
か。一人。湯女。いふ人。何
か。一人。湯女。いふ人。何
か。一人。湯女。いふ人。何

やい人

毎日。湯女。いふ人。何
き。湯女。いふ人。何
か。湯女。いふ人。何
か。湯女。いふ人。何
か。湯女。いふ人。何

食類

酒造年の上酒より吟味

あり

煮たことろりーのきま

まきん

豆腐にじんぐく登り

に馬。こ念すうり

海川の魚はさん

さ。伊勢のし。まり

名おしをよごして

のりやうき

味

香のめま

まーちのめ

あつた。梅が。思

あつた。あつた

あつた。あつた

あつた。あつた

あつた。あつた

あつた。あつた

あつた。あつた

あつた。あつた

あつた。あつた

あつた。あつた

あつた。あつた

酒入り

かゝむ

蚊帳一号

よだ一号

ぬえ一号

右スミをいへ備へる

みやげ

柳かき 海苔 湯たね

楊枝 昆布 宮津漬

いしむら 細工 煙者

○湯漬名不詳

世渡八景

温泉映鏡

わたりてぬい裏をむきぬ

松崎晴嵐

松がさかす小嵐のこきりて

桃雪夜雨

桃雪のたやちりるむらさき

戸鴉の秋月

とらふらふがふく名木の月をみる

つらつらとていひのこせまをさあめ

結巻

さる巻にや夜の井とてさる
月にはかゝる天律のうら
るに文照

けいの候とては思ふに
たゞとていふらんを
候く山陽帆

高帆所流田をせて程た
ゆる付ふの海のけり
未代山温泉寺

本より十一面観音は
六に余邊と云れ作
道智と人の用基湯標

熱別商坊之毎年三月
廿二日用山長徳坊
せんが湯入る智上人

かおろかりりや武帝の
殿はみ遠一未代山温
泉寺とみこのりや

宝塔 本ま
の右

茶師堂 温泉寺
の麓

鳩の湯 温泉寺の東山麓
のり者之湯とあへる

極楽寺 温泉寺
の西 経堂

獨結水 温泉寺の南
のり者之湯とあへる

四所神 中の神の
省はさるの神乃

善林とて和州元来

初訪一陽清の張堂

本位寺 日蓮宗

蓮成寺 三宗

愛宕山 山名とて山あり

そ者

辨天山 山名とて山あり

活云湯塚 山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

山名とて山あり

田井村

いまは村 いりかき
の林にあり

小一は いこ村の東
の土俵にあり

津居山 いせの口
乃あるなり

津山

津山 津居山の西
津山

津山 津居山の東
津山

津山 津居山の西
津山

津山 津居山の東
津山

津山 津居山の西
津山

津山 津居山の東
津山

津山 津居山の西
津山

津山 津居山の東
津山

津山 津居山の西
津山

津山 津居山の東
津山

津山 津居山の西
津山

津山 津居山の東
津山

津山 津居山の西
津山

津山 津居山の東
津山

津山 津居山の西
津山

津山 津居山の東
津山

津山 津居山の西
津山

津山 津居山の東
津山

津山 津居山の西
津山

○但列城添那湯治

通一竹雲居為人皇

每二大坂人皇一名

倫後町植檀木入丹波

植檀木次於町南丹波

淡路町木次於町南

淡路町木次於町南

淡路町木次於町南

京都人皇名

馬丸色板木下 但る木

木下板木下 山本木

木下板木下 山本木

六角馬丸木入 元徳

室所造の詔角出石原小

板木通室町及かもや

不達者りる入通一かご

陽治四日長九月廿二月

と八豊國

と八豊國

と八豊國

と八豊國

と八豊國

と八豊國

と八豊國

と八豊國

と八豊國

にうろ十日始から事な
はと六天者之文庫一巻
異あててまうとてしむ
湯治。宿のあて名れ付れ
係状未て寄る。あはれり
長入用け不八由分持未
あへる。持未なる掛
田五六費用あへた。人定
を種てよう。右中ふあはた。
時着より。不自由之案内
かて。やまあまう。湯治
風事あり

右の用ある人の名を記し人
足宿。桑内丁にば。人其
て附後の上列も合はた。
恥を出し。持未人区美獄
宜交世話しん

○賃銀定

大坂のたし
五ヤを固まて

一通いかご

四日美二丁 印持

一住者地人足

八費用持四日美二丁

豊岡納金
大坂

一通一かど

四日辰一丁 四指四五

一佐藤村人足

四日辰八丁目指 廿二五

京小出石豊岡、

一通一かど

四日辰一丁 四指廿五

一佐藤村人足

八ノ五丁目辰 十九五

豊岡小京と

一通一かど

四日辰二十 四指廿五

一佐藤村人足

八ノ五丁目辰 廿二五

出石小京と

一通一かど

四日辰一丁 四指廿五

一佐藤村人足

八ノ五丁目辰 廿二五

右のりとも 飯代新田。ワ

あふり。あふり。あふり。あふり。

日と。時ハ。か。ご。一。丁。あ。一。日。辰

一。指。一。上。丹。後。上。り。と

日と。時ハ。か。ご。一。丁。あ。一。日。辰

一。指。一。上。丹。後。上。り。と

まり合つてまを。人皇...
 ま上下...
 新...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

○京より湯徳

系大...丹波...
 ...
 ...

○松屋御旅

...
 ...

○はくさ川

...
 ...

○はくさ川

...
 ...

○はくさ川

...
 ...

○はくさ川

...
 ...

い水上の狭小丹波堂於

出法遊川、落大舟、梅津と

なで、のけし、く、あ、く、て、う、ら、り

り、り、り

○山田村

○文徳帝車塚

○河津村

○二町縄ノ

櫻木原

町をこら、り、七、八、丁、移、茅

の、作、ら、へ、小、坂、あり

○塚原村 ○大魚野

○春日社

○酒吞童子腰石

△系が、ゆ、り、の、右、の、を、と、は、

伏、ん、が、来、人、の、系、を、下

考、那、向、の、林、に、出、掛、掛、直

る、あり、又、大、坂、と、ん

人、集、あ、り、て、水、登、り、の、道、あり

出、る、が、う、へ、但、向、の、林、が

寄、掛、を、小、松、原、細、な、き

く、し、て、縁、が、あ、り、と、な、り

又、延、る、が、あ、り、人、や、り

京

かきしきべし。溪のふみ
定まらばらう

○堤のふみ。いざみ存人足
伏えたるの。お討てて。

合一人。百ふたり。てまりの

かいの坂 階々
二十丁

け坂の坂丹波の。かいはり
下た。と。大に坂とあや

きりて。かいの坂と。いふ。ま
るあり。○保ま子安乃

地蔵あり。懐妊に女。き
の。を。お。て。降。産。の。時。に。

かきしき。あ。あ。あ。あ。あ。あ。○

休を。あ。か。ら。し。し。と。塚。見。と

酒。呑。ま。る。が。首。塚。と。い。ふ

○日下村 舟湖の地蔵。そのた
の。ま。ま。王。子。は。ん

○八條村 八條の社者。その氏教
の。ま。ま。王。子。は。ん

一社あり。軍兵矢を納り。と。
矢塚と。い。ふ。あり。社。の。た。ら。う。り

廣乃 かいの坂より
二十丁

○ろほり村 ○かて系村

龜山 いろろな。あ。ま。り。の。土
と。い。ふ。ま。ま。の。土。塔。と

うら。ま。ま。入
丁あり

松平紀伊守殿 五万石
松下あり

△方その人。但る。赤山の川。赤町
左。山。貝。原。と。い。ふ。立。石。め。け

▲ 森山公... 退入... 後... 退入... 田...

● 出雲大社 西の小森

寶生寺 作れ... 西... 三十三丁

○ 高瀬村 高瀬村 出雲

○ 森村 森村 出雲

小林村 一丁

○ 小門村

高卒都婆村 小林より 十三丁

八原村... なる...

なる... なる...

なる... なる...

○ 川原村 川原村 出雲

○ 新川買村

八本村 八本村 出雲

○ 廣津村 八本橋村

○ 新田村 新田村 出雲

鳥羽村 八本より 一丁

此... 出... 出...

うら... 出...

橋... 出...

村 ○ 小山新田

園部 園部 出雲

小出伊勢守殿 二丁八

京

坂下 四谷し。出くまは川の上り
川の上とて何れも川の上り
たれ也 ○本橋村 羽の橋を
るた也 田に中ふあり

○補陀寺 落谷 教音を
ふたうり せんせん

去教音とりし。りぬふ之を
外にさす。休みのあり。本橋村は
三ノ戸 孫孫 一リ

ふぬをのみ 園とては
えん

○新之宮村 ○古之宮村

頂加村 二ノ戸 味方
モリ

○花巻 けしん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

○石巻 せん せん
ふたうり せん

長川を区てう。徳乃少罪也。

又母は田原のいふとあるがうし

○大井村 ○井尻村

出石村 十二丁

常世とある母は田原のいふとあるがうし

○大井俵のいふ ○坂井村

水原村 村早稲 出口村

と大久保村

中太久保村 村ありさる

又二谷川より海まで二丁程ありとあるがうし

又のいふとある ○細井村 五丁程あり

免原村 十丁程あり 大久保村 一丁

中下二村の(中村) 下太久保中太

○中太久保 下太久保中太

細之 一丁程あり

出石に若川有。是より上りて成

多くとあるがうし

又太村 十丁

出石権記格とあるがうし

又のいふとあるがうし

○足利村

生野村 十丁

大いといふとあるがうし

○秋の表天林社 村あり

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

○（地名）田

丹後身入(ひだり)の(ま)り

○久和市村(荒河)の(ま)り

荒河(ま)り 二十(ま)り

△右 丹後(ま)り 但(ま)り

右乃(ま)り 丹後(ま)り

人の丹後(ま)り 丹後(ま)り

て(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

〇(ま)り 〇(ま)り

くさり継ぎのつた。さきさきと
けりき継ぎの別してあり
廿丁けり。味ハ丹波但馬の
さいふ小大ののきさる。丁が
とちつて長狭。二丁とある。又八丁
丁けり。長狭にねとさめいねと
別てある。さきさきの。教さきと
くさる。長狭のさきさきとあり
久畑 兼田 かの原の味
ちりり六十丁

又六丁終て川あり。味糖ま

○栗尾村

平田村 くらり
一丁

小倉 ありし くらり
一丁

△山名村より丹波の宮
津尾有指合を約てはし

△尾谷のやまてとて。味糖ま。

糖倍とちりり。味糖ま。八丁

後とちりり。味糖ま。五丁

尾をりり。味糖ま。勿論の味

とちりり。味糖ま。味糖ま

小坂あり。味糖ま。味糖ま

○知根村 味糖ま。味糖ま

味糖ま。味糖ま。味糖ま

寺坂村 味糖ま。味糖ま

○終つ山 味糖ま。味糖ま

味糖ま。味糖ま。味糖ま

出石 味糖ま。味糖ま

味糖ま。味糖ま。味糖ま

仙石歌仙守乃（たむかひにん）

○宗家院寺（宗家院） ○一の

宮（宮） 一の宮（一の宮）

△出石の山（出石の山）

山崎の山（山崎の山）

崎の山（崎の山）

この山（この山）

出石舟問（出石舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

舟問（舟問）

○豊岡湯治と陸地を記

石原庄の湯治と陸地を記

湯治 三十文

湯治 貳百文

但主人を定む人らとる
一人を定む

挾箱一箱 二人奉

手箱一丁 二人奉

ほら一巻 二人奉

やういふ湯治二丁三人奉

湯治 湯治人の湯治 湯治を
湯治に湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり
湯治を湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり
湯治を湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり
湯治を湯治するなり

○豊岡舟回

湯治 湯治を湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり

右 左

湯治 湯治を湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり

湯治 湯治を湯治するなり

市土産物

折るぬす法中いざれ早
ゆきほむ仕立屋上いひあむ着
本立、ほろのぬ海おるい入、まは
おきし、まはぬ焼烟まほ、物控
湯の花、ま、右、か、海まま
一切小回物、あ、ち、事、業、取、有
○貸賃物
本、多、冬、三、味、深、加、引、及、八、軒
お、ぬ、す、ま、ま、く、通、中、地、取、あ、れ、ま、ま、
中、道、ま、中、あ、れ、お、れ、何、れ、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
一 但書、備、忘、録

三回城

大坂山形と融寄をいひ出
ふまのまゝ○三番村
十二村
村を出て川ありて○藤村

○今里村○三津や村○
加藤村
神漆
一
新五門ありて

▲壺に紅い丹舟、紅い小舟、出ん
平海なるは、なる、なる、なる、なる、なる、なる、
小舟の心、なる、なる、なる、なる、なる、なる、

たふたふとをし。其を乃と記

○冬知村ゆきちむら ○下坂村しもさかむら

○上坂村かみさかむら

塚つとむら 音なまー 林はやし 一いちリ

○南野村なんのむら 太た工く伊い丹に ととアアムム

田いな陽やう村むら 宿しゆく邑い 塚つとむら 一いちリ

村と出て大池有名池之おほいけ有名ないけ

あつくまゆきまの ○中野村なかのむら

字あざ友とも ○姥いばが茶ちやや ○あま

村むら 中なかつふちふちここららんんここ

小こ溪たに村むら 一いちリ

けねも伊丹廻りのなり

新あらたの町まち ○茶ちや谷や村むら

田いな村むら ○川かわ面めん村むら 一いちリ

瑞みづ形かたち長ながふふけけふふるるととららふふ寺てら あり是こゝのこゝ教しやく音おん育いく西せい宮みやののなり

生なま瀬せ村むら 小こ名な 一いちリ

入いれ口ぐち生なま瀬せ川がわ 流ながれる水みづををももちち水みづのの入いれ口ぐち

△右みぎ生なま瀬せ川がわ下した丁ぢやう前まへ 小こ川がわ右みぎ

西にし野の村むら 音なまー 塚つとむら 一いちリ

有あ本ほん村むらのの池いけのの水みづ乃のがが歌うた也なり

あまの池あまのいけ乃のがが歌うた也なり

きりせき長ながくくははし

○新あらたの町まち 次つぎ又また川がわ原のらのの屋やを

丸まる石いしのの方かた 川がわ原のらのの屋やを

十じゆ丁ぢやうのの方かた

坂といふ所 ○大のり村

名塩 一ツ

け村といふ所 子紙を漉す

とんが塩紙 只わろ

赤久保村 二十丁

○摺詰水 気か目下

と。平十はる。くろり坂。さぬ

坂と。と坂多く。休あかろ。

平田村 ○

平田門 日下村

乃場川原 二十丁

酒造り。出の川

△まろの四所

か。播列と本。おれ社あり。其

ま石か右の。と田乃え

○ふ。境の月。之の播今

○十四丁。終てふ。と田

の。杭有。い。お。と田

教者。ふ。つ。ふ。お。さ。家

播列。清水。なる。と。入。り。系

と。と

と田 乃場川原 二十丁

九鬼長門守 乃城下

○と。橋。の。社。出。の。之。の。社。乃

自林よりあつたが候を。隣家より
して。往くを。あつた。あつた。あつた。
て。酒の。あつた。あつた。あつた。
足と。あつた。あつた。あつた。

○大魚村(後河村) 魚ひす村

加茂 中島村 三回
沃村 一り

▲廣野 村の入口に。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。

○長坂村 入口に。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。

○四辻村 本宿村 一り

新田村 田舎村 一り

藍井町 新田村 一り

村を出て。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。

の坂有。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。

△三水尾村なるくげ津也

と云ふ事ありしをいれり。雖

亦そのくげ津を以て云ふ

○のせ村○のせ村（のせ村）

○大と（大と） 進入と

下村野中と云ふ事あり

△大と中村と云ふ事あり

者も其の事ありしをいれり

と云ふ事ありしをいれり

後分と云ふ事ありしをいれり

○宮村（宮村） の横有と云ふ事あり

進入村（進入村） 二りよ

右市かこと云ふ事ありしをいれり

△丹後名不存町人の令が

坂をのりしに禁をたはし

○園村一里（園村） 有（有） ○小た

一り ○いちほ（いちほ） 一り

うまは野田（うまは野田） 一り

智心（智心） 二り 是が丹後

と云ふ事ありしをいれり

○津が坂進入村と云ふ事あり

と云ふ事ありしをいれり

合ふと云ふ事ありしをいれり

身の地人他項と云ふ事あり

下ア世丁。くんと新あ

大倉 おき 一リ

村乃入口新群社とよら

貝原 いづみ 一リ

織田守 おだ 一リ

○後社 ご 一リ

石頂村 いし 一リ

長和多 なが 一リ

△ た 一リ

経 けい 一リ

横田村 よこ 一リ

北出 きた 一リ

た た 一リ

水 みづ 一リ

○柳 やなぎ 一リ

河 か 一リ

出 で 一リ

△ た 一リ

○ お 一リ

佐 さ 一リ

出 で 一リ

○ お 一リ

植 うゑ 一リ

大 おほ 一リ

は は 一リ

農民不乳... 平次

平次... 一リ...

平坂村

平坂村

○本坂村... 本坂村...

○本坂村... 本坂村...

本坂村

本坂村

○本坂村...

本坂村...

○本坂村... 本坂村...

○本坂村... 本坂村...

○本坂村... 本坂村...

○本坂村...

本坂村...

○本坂村...

○本坂村...

本坂村...

○本坂村...

本坂村...

○本坂村... 本坂村...

○本坂村... 本坂村...

○本坂村...

本坂村...

○路中川 〇岩中村

〇栗田村 〇青田 〇三

〇江原 〇伊後村

〇日蓮村 〇伊後村

〇土居村

〇小島 〇一

〇名酒あり 〇あま村

〇いりし 〇山の上を

納屋 〇二十丁

〇いりし 〇大坂より

〇のり 〇せり

〇湯 〇四里の

てし

〇同 〇

〇赤坂や 〇松や

〇陸や 〇十郎

〇回り切 〇

〇又人の 〇

〇又人の 〇

〇又人の 〇

〇又人の 〇

〇又人の 〇

〇又人の 〇

〇又人の 〇

〇又人の 〇

〇又人の 〇

一 づら一 番 二人

一 宮よむと子 一人

右のふれは人のあつた
と記すのみはつて

○佐野 ○九日

豊岡 なやより

町 しん 出所と云ふは

信の茶や者。出云。今舟

をの。休る。日。湯

と記す。煮かた中記

湯 ゆ 湯 ゆ 湯 ゆ 湯 ゆ

湯 ゆ 湯 ゆ 湯 ゆ 湯 ゆ

橋 摩 山

大坂梅田がたけ ○大仁村

○群里村 いへ ○佃村

○厄己の渡 いへ

大坂

大坂 おおさか

松更遠江舟 しん

信 しん 下 した 但 た 大坂 おおさか ざ ざ こ こ が が あり

合 あ 舟 ふね の の 有 あ 一人 ひとり 大 おほ 木 き の

浦 うら 大 おほ 木 き の の 橋 はし

坂 さか の の 里 さと 素 す 木 き の の 家 や

文 ぶん の の 屋 や 橋 はし の の 邊 へ 有 あ 舟 ふね 一 ひと 月 つき

右塔之例の漢者○

川 ● 山 ● 難波の里

八丁 ● 榎名門 ● 琴

浦の津 ● 大津の社

武庫川 ● 二

野原 ● 三

● 四

西宮 ● 二

西宮大社 ● 三

廣田社 ● 四

● 五

宿川 ● 六

阿保 ● 七

親王の所 ● 八

お出宿 ● 九

山 ● 十

● 十一

● 十二

● 十三

● 十四

● 十五

● 十六

● 十七

● 十八

● 十九

● 二十

● 二十一

● 二十二

● 二十三

● 二十四

● 二十五

住吉神社 住吉の三所を祀る。此の地あり

○赤川 赤川に源流あり。此の地あり

○河原町 河原町の三所あり

○寺内村 求塚 寺内村の地あり

○摩耶山 切利天 摩耶山の地あり

○布引の滝 布引の滝の地あり

○船の浦 船の浦の地あり

○服の滝 服の滝の地あり

○生田川 生田川の地あり

○生田の森 生田の森の地あり

○城 城の地あり

○神子村 神子村の地あり

○宝勝寺 宝勝寺の地あり

○桶成の 桶成の地あり

○有馬道 有馬道の地あり

○漆川の大川 漆川の大川の地あり

○小宰相 小宰相の地あり

○兵庫 兵庫の地あり

○尾崎 尾崎の地あり

○経の池 経の池の地あり

○新宮 新宮の地あり

○新宮 新宮の地あり

○新宮 新宮の地あり

○新宮 新宮の地あり

○新宮 新宮の地あり

○新宮 新宮の地あり

○新宮 新宮の地あり

長彦の町。東海くく。有。深
土。宗。本。建。寺。く。く。深。壁。云。の
● 真光寺 石の
● 浮世塚
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳

● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳

● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳

● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳

● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳

● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳

● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳

● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳
● 和町の聖徳

● 飛松 板倉村に育ち
家のおもてえ

月見松 板倉の田舎に
あり

● 板松 板倉の田舎に
あり

● 松平殿 板倉の田舎に
あり

須上 板倉の田舎に
あり

須下 板倉の田舎に
あり

須下寺 板倉の田舎に
あり

須下此屋や 板倉の田舎に
あり

● 鐘揚が松 板倉の田舎に
あり

● ひょうろく松 板倉の田舎に
あり

● 一の松 板倉の田舎に
あり

● 二の松 板倉の田舎に
あり

● 三の松 板倉の田舎に
あり

● 四の松 板倉の田舎に
あり

● 五の松 板倉の田舎に
あり

● 六の松 板倉の田舎に
あり

● 七の松 板倉の田舎に
あり

● 八の松 板倉の田舎に
あり

● 九の松 板倉の田舎に
あり

● 十の松 板倉の田舎に
あり

● 十一の松 板倉の田舎に
あり

● 十二の松 板倉の田舎に
あり

● 十三の松 板倉の田舎に
あり

● 十四の松 板倉の田舎に
あり

● 十五の松 板倉の田舎に
あり

琵琶ヶ嶽 ○おんちが嶽

○駒ヶ嶽 ついでに

○仲哀天皇陵 いしの上

て。一人多れ墓。○

○鳥渡 ○山回村

大倉岩 一り

○綱敷天神 大くろ石

迎之。はくし人下

○忠慶塚 人丸への

○明石

松平丹後守坂

○大沼川 ○大沼新田

○大久保村 ○栗田村

○野中れ法

○神出山

○三軒家

長池村

是古海

出て

砂

山乃有 新井村 射野村

○清水村 是まき

○取南 桑 ○清水

新田 後里村 ○大山村

○高畑村

西谷村 長いけ

○新立家村 ○野口村

○坂本村 たりの清水

△山村 たのて 刀田尾上

○石室 石室

○三里 三里

○刀田山鶴林寺 加古郡

○尾上社

○高砂川 尾上

○高砂 高砂

○高砂の社 社

高砂

高砂

高砂

高砂

高砂

高砂

高砂

高砂

相生の松有。雄太の松の天正
の法。毛利氏に降。小出某に
に。此の松。今の松の多
法列之。極さや。入る

●地蔵山十輪寺 水鏡
末寺。寺に。入。不。び。松。上。人。水。
足。の。旧。松。の。法。ア。古。ま。と。の。人。
後。う。る。力。一。之。●三井村
其。地。う。り

●荒井川 河。●魚橋村

●石室殿 噴湯。七。八。丁。也。
又。ま。り。が。常。々。も。い。る。二。大。
六。尺。也。位。左。右。の。林。生。る。二。大。
林。と。ま。い。ら。ふ。は。新。出。の。松。
の。入。丁。も。い。る。魚。橋。の。松。村。
出。ぞ。ら。●曾根天神 社。松。
松。一。●名。松。方。若。家。り。極。ま。
と。名。松。も。大。八。尺。ま。の。う。り。一。
大。三。尺。ま。の。伸。へ。●勝。安。
十。丈。松。の。松。七。丈。●勝。安。

寺 為。わ。と。村。あり
浄土宗。寺。松。二十。石

○阿練陀が宿

加古川宿 寺。松。あり
と。り。一。り

○加古川宿 七郎塚
て。に。あり。塔。石。新。宿。
高。木。村。松。の。あり

○津丸村

△こより法苑に。松。乳。身
廿。又。番。札。不。清。水。寺。等。の。
乃。あり。右。一。松。一。

夏渡

か。と。川。の。
二。り

○後井村 ○佐土村

所着

至。勝。の。
一。り

△姫路。出。て。尺。虫。屋。形。出。

信乃乃二里を以て名を置きた

○小村草部○名はたふす

名はたふす大王一リ大王の御子

名はたふす大王一リ大王の御子

名はたふす大王一リ大王の御子

名はたふす大王一リ大王の御子

名はたふす大王一リ大王の御子

名はたふす大王一リ大王の御子

名はたふす大王一リ大王の御子

名はたふす大王一リ大王の御子

名はたふす大王一リ大王の御子

名はたふす大王一リ大王の御子

名はたふす大王一リ大王の御子

酒井雅樂殿十八城下

○教社伊和志の社と云ふ

社名九郎社候一軒廿一年同

七月十三日十月十日

○龜山本

徳寺西○船場本徳寺東

○銚子の里西○孫

里村東○野里西○板板城

○増位西○隨願寺

二百八十石三台京

社名七十二石八斗勝舎二十

白幣二

松之の地と云ふ

由少一西... 書寫... 長体...

教者... 西國... 二天...

林... 基...

石... 山...

山... 山...

山... 山...

○破塚村

仁豊孫

○大畑村

溝口村

○三つ

新町

右... 板...

子... 山...

甘地

○近平村

○福渡村

山...

山...

入...

○大内口村

○福本

栗賀村

山... 山...

○戸田川 ちうりやう

いふよりよはふ寺とて加留
寺あり元寺、秋寺といふ寺
あり ○うしどの 春日社
あり あふまをり
あり あふまをり

一本杖 聖堂より
三十一丁

○大山村 三村 ○ゆり橋

遊土 一本杖
一丁

○遊上保とて小坂あり

立石あり ○馬場村 三丁

此川あり、ちうりやう橋あり、
又大軍太の井乃言ありやうり
あり かい上
一丁

生形銀と乃入口乃聖

口よりあり、ちうりやう橋あり

○生形保 小坂之保橋の
さふりやう

○こごり さふりやう

上保村 高保 三十一丁

●岩手岩鏡青 遊ありて
三十一丁

十八丁ちうり、又十八丁
あり、ちの村のや、出 ○下保

村子村

山口村 上つ事とて
三十一丁

○新井村 ○常刀村

○奈市村 ○お船村

竹田 ふさり
二丁

けいさふ ちうり
三十一丁

又作田垣として藤末
ありしと○牧田村

和田山 一リ

△ここをてこ田越と云

合取りてらとらとらとら

岡とどの屋中附りと

田越方よりあしゆへ

らにのりまうと出と

三田 一リ八丁

茶屋 一リ八丁

信場 一リ

小田 一リ

江のえ 小田 十丁

江原 一リ

ふさ 一リ

納屋 二十二丁

豊岡 一リ

湯治 一リ

大坂よりゆきまきと云

一里八丁余あり

後智ふが丹後湯
徳を屋中記

後智ふ 是より河守もど
三里あり。かり切

後々。六百文位。ま合も。空り
なり。野の中をたのうをあり

せね河村 名は 後智ふが
凡二丁

△村もがまきよう 太文津乃
た出る乃

○うらーがく 船なるの
がけ

あまて。ま羅
のの細るく ○やぎ川

牧川のあより ○是を村

天津 名は せね川が
一リ

●鬼が城 天はが一りまき
あまて。ま羅

○あぶのき川 ○境川

丹

此川母波丹後
のさくらあり

公産村

一ツ
一ツ

後知ふもむねなるり時
にありては後知ふもま
さきもなし
○たてり村

河守

二ツ
一ツ

○外宮

外宮の内へはま
み下なるあり

雄器正一十年十月神物あり
て聖年七月七日。今の伊勢
ふらりまあり。○川田村
本いせといふ

○二股村

内宮

一ツ

村の口より川有。長川と云
橋はさき橋といふ。本社の

茅葺のり也。今のつせれ

下。名居の殿より

親書を境内より

日本控。四本けりき

控。式神様と云ふ。縁

のまを橋。新なりと云ふ。

雲根けり。二本控。杯有

△社より。所。庭と云ふ。

社をた入り。後が

を。た。り。て。ま。難。お。を

けり。入。六。下。み。て。天

の。若。く。ま。い。ら。あ。ふ。社

あり。亦乃若屋之御
 鹽神生湯の奉りし
 是より入六丁
 出く併生寺本村出
 入丁迄行て土橋有。併生
 寺出村人土橋行りし
 ずた。好むし。且は美
 事。ば。を。る。り。を。宗
 寺。の。物。あ。ら。ば。長。用
 併生寺 あり 四宮
 ○蒸林がゆり 蒸林社
 あり 有。長。及
 鬼の更だるとある者 ○三河

是。を。為。る。名。の。何。る。り。梅。屋。王
 名。は。江。定。津。及。ん。ま。に。終。た。
 仍。大。に。い。ふ。夫。ヶ。嶽。鬼。屋
 及。ん。十。所。身。の。鬼。が。池。洗。治
 累。三。社。の。神。の。ふ。丈。儀。有。交
 儀。の。あ。ら。は。は。あ。ら。は。り。り

○赤岩嶽
 中の茶屋 併生寺
 廿丁

併生寺の坂の神様より大
 江へ入るり ○番甲隊
 忌難なる事ども。住。長。と。り。り。
 あり。十。四。入。丁。那。の。胡。ろ。難。而。し
 坂の内。橋。井。と
 又。名。も。あり

がんどろ。味。や 高 市。桑。ヤ。カ
 一。り
 ○園子測村 ○合山村
 ○小田村

上宮津村

八丁

是より東海まで至本松原
のたのしみなり。今後といふ所
遊んでありあり

宮津 宿更を河上宮津より
大江山を極め家者約めべし

松平多満海 七万

御城下之 地多し。借るを
多く織出ん

○宮津の林
大己をそそ

少長名も あり

△宮津の河原所と

ゆへもさう。名もとさる

にふひとさるや

四里なり。あり。あらん。さう切。言
ふが。三百ふもせ。さうりるし。

のらうとさる人。さう。さう。さう
のらう。さう。さう。さう。さう。さう。

あな名は。さう。さう。さう。さう。さう。

若嶽とさる。頂嶽

とて。大の重なり。さう。さう。さう。

西より。た。陸。あり。さう。さう。さう。

赤文津が。若嶽とさる。名

あはれ。さう。さう。さう。さう。さう。

そん。あ。さう。さう。さう。さう。さう。

位。さう。さう。さう。さう。さう。

け。頂嶽。さう。さう。さう。さう。さう。

○大乃。さう。海。さう。さう。さう。

あり。波。津。村。の。戒。者。と。切。す
の。智。身。と。い。何。と。大。の。さ。う。さ。う。

さう。さう。林。と。○。雞。塚。さう。さう。さう。

春。の。陣。と。さう。○。雞。塚。さう。さう。さう。

あり。またそのまゝ。

またそのまゝ。

またそのまゝ。

またそのまゝ。

○江尻村（佐賀県）。唐土に例儀
を揚せしむる事あり。

○一の女（佐賀県）。

○一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

△一の女（佐賀県）。

○櫻村○交番村○吳

崎上奉丸寺 とうろ村
のりまふ

有津中宗の墓の
本寺河津施の墓あり

久良

一リ

所代宮屋鋪有古抄

ふ海松を賣○久良

味三系味も之所より十町
あり者へ海又後里志終

意丹後地るふ境あり江尾
より海ありとをびに三より

○飯谷味 少の酒ありと
氏の味あり

○飯谷村 久良の
味あり

樂く浦 名ニ一久良
ニリ

是の湯傳とすたの
飯谷一人系持二とありの湯あり

指久湯伝とすたの湯と
十一久飯谷と十二久

湯

味あり

後知ふ湯傳より

存法九二十二里半二十余

傳宮津ふふありあり

加ありあり

但馬本弘西中産甚有泉の

但馬湯 魚登岸

文化三寅五月改之

書 京都 平野屋茂兵衛
大改 網屋茂兵衛

林 同 秋田屋良助
同 藤屋彌兵衛

中 三五三

38-209

